

●第2回策定委員会 意見対応表

No.	発言者	関連箇所	意見・指摘事項	対応方針
1	A委員	第2回資料 P14、15	・空き家対策は、市街化区域も市街化調整区域も併せて市全体で同じように実施していくのか。	・空き家対策については今後、誘導施策の検討の中で精査します。
2	B委員 委員長	第2回資料 P29	・課題4にある災害は、水害に特化したものなのか。	・防災指針（案）では、水害を中心に他の災害も含めて整理を行いました。 ⇒「第4章防災指針」
3	C委員 委員長	第2回資料 P24、25	・居住の集約化を図ることで、現在ある避難所は今後なくなるのか。 ・無くなった場合、その跡地利用や、その場所の避難地としての適性なども関わってくる	・避難所は収容人口などを加味して設定するため、現時点では不明であるが地域住民が安全に避難できるように引き続き検討していく。
4	D委員		・市街化調整区域において、住宅の新築と子育て支援施設の立地の連携はとれるのか。	・立地適正化計画の策定にあたり、関係部局が庁内検討体制に含まれているため、連携を図っていきます。
5	E委員		・祖父江地域や平和地域では、地域の祭りやイベントに地元が積極的に参加している。市街化調整区域において、インフラの維持は難しいかもしれないが、そういったところは大切にしてほしい。	・計画内で地域のコミュニティ維持を掲げています。法に基づかない市独自の区域設定なども含めて考えていきます。 ⇒「第5章5.法に基づかない任意の区域」P113-116
6	D委員		・あと2年で終了する現在の総合計画にとらわれてはいけなのではないか。	・立地適正化計画の策定にあたり、総合計画を所管する部署も検討体制に加わっているため、今後の総合計画も見据えた検討をしていきます。

No.	発言者	関連箇所	意見・指摘事項	対応方針
7	F委員	第2回資料 P29、30、35、 36	・現況分析にある財政に関する課題がどこにも出てきていないため、どこかに入れてはどうか。公共施設の老朽化対策などにも財政は関わってくる。	・4つの課題の中で直接的な表現はしていなかったが、財政は複合的に関わる事項のため検討し追加しました。(別添資料参照)
8	副委員長		・多くの委員が市街化調整区域への関心が高く、そこをどう扱うかが重要。分散した市街化区域に施設を集約化すれば、周辺の市街化調整区域の居住者も利用できる。 「課題2 コミュニティの維持」に、その辺りのことを書けたらよいのではないか。	・市街化調整区域で、土地利用という言い方をするのはそぐわないと考え、具体的に言及していませんが、任意の区域や誘導方策で表現できるか検討していきます。 ⇒「第5章 5.法に基づかない任意の区域」P113-116
9	副委員長		・誘導区域や、法に基づかない任意の区域の設定方針は妥当と考える。 ・防災については、市街化調整区域についてもやるべき。	・任意の区域の設定においても災害リスクを踏まえた設定を検討します。 ⇒「第5章 5.法に基づかない任意の区域」P113-116
10	A委員	第2回資料 資料編 P17、29	・高齢化率が40%以上のところが多い一方で、世帯数は増加している。これにどのように対応していくのが課題となる。	・一義的には人口の集約化ですが、この課題に対して立地適正化計画で扱えない場合は全庁的に対応を検討していきます。

課題 1. いかに魅力的なまちの拠点を形成するか

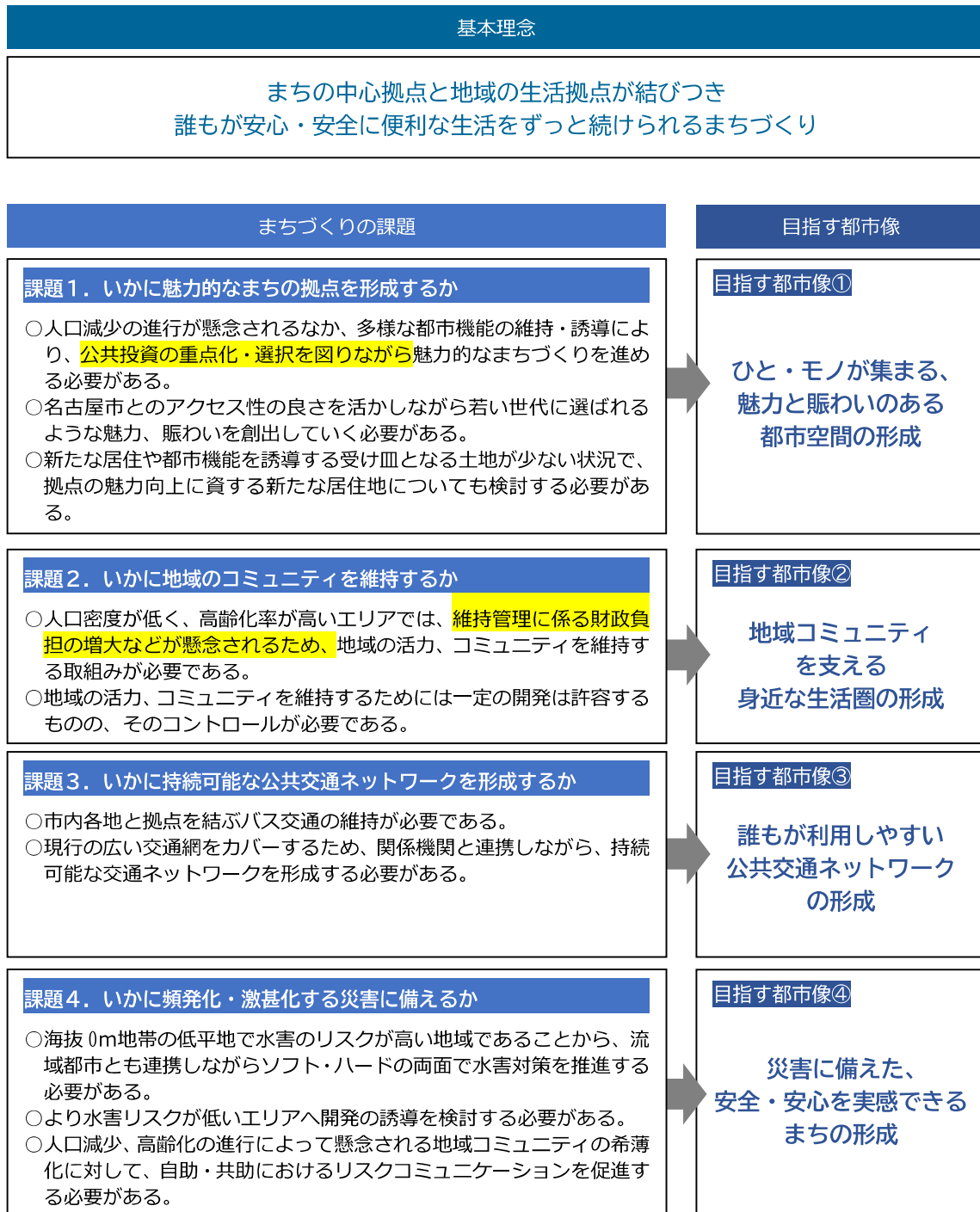
- 名鉄国府宮駅及びＪＲ稲沢駅周辺の市街地では、土地区画整理事業によって、まちが概成し人口や都市機能が集積する都市全体の拠点としての役割を担っています。一方で、人口減少や高齢化の進行に伴い、公共施設や都市基盤の維持管理に係る財政負担の増大が懸念されます。今後、限られた財源の中で持続可能なまちづくりを実現するためには、都市の拠点として多様な都市機能を維持・誘導し、公共投資の重点化・選択を図りながら、魅力的なまちづくりを進める必要があります。
- 全市的には人口減少が進むものの、本市には若い世代の流入も多く、平成 27 年から令和 2 年にかけては 25 歳から 39 歳で転入が転出を上回っています。名鉄国府宮駅及びＪＲ稲沢駅周辺は名古屋市とのアクセス性も良いエリアであることから、引き続き若い世代に選ばれるように魅力、賑わいを創出していく必要があります。
- 名鉄国府宮駅及びＪＲ稲沢駅周辺では高密度の市街地が形成されていますが、その反面、新たな居住や都市機能を誘導する受け皿となる土地が少ない状況です。そのため、今後、人口減少に伴い発生が懸念される空き地・空き家を利活用しつつ、市街地の周辺においては拠点の魅力向上に資する新たな居住地についても検討する必要があります。

課題 2. いかに地域のコミュニティを維持するか

- 祖父江地域、平和地域における市街化区域の一部では人口密度が低い地域が見られ、また市域の約 9 割を占める市街化調整区域では、人口密度が低く高齢化が進行している地域も見られます。これに伴い、地域活動の担い手不足や日常生活サービスの維持が課題となるとともに、広範囲に分散した居住地における公共施設やインフラの維持管理に係る財政負担の増大が懸念されます。このため、地域の特性を踏まえながら、地域の活力やコミュニティを維持する取り組みが必要です。
- 市街化調整区域では、人口減少下においても一定の開発需要がみられ、開発許可や新築の件数、面積は市街化区域を上回っており、その分布も全域に広く点在しています。こうした状況は、道路や上下水道等の都市基盤、公共施設の維持管理コストの増加につながることから、開発をコントロールする必要がありますが、地域の活力、コミュニティを維持するためには一定の開発を許容していく必要もあります。

3. 立地の適正化に関する基本的な方針

まちづくりの基本理念を実現するため、現況を踏まえた課題に基づき、目指す都市像と方針について整理します。



稲沢市立地適正化計画

目指す都市像①

ひと・モノが集まる、魅力と賑わいのある都市空間の形成

基本的な方針

名鉄国府宮駅及びＪＲ稲沢駅周辺は、都市活動を支えるまちの中心拠点としてふさわしい高密度な都市機能の強化を図ります。公共施設が集積する地域においても、豊かな日常生活に欠かせない重要な拠点として、魅力と賑わいのある都市空間を目指します。あわせて、既存の公共施設や都市基盤を有効に活用し、計画的な維持・更新などを行い持続可能な都市構造を構築します。

また、多様な価値観による新たな居住ニーズに対しては、空き地や空き家などのストックを活用しつつ、アクセス性を考慮した利便性の高い新たな居住地を形成します。

目指す都市像②

地域コミュニティを支える身近な生活圏の形成

基本的な方針

祖父江及び平和地域の市街化区域においては、暮らしを支える都市機能の維持や公共施設の再配置などにより、地域コミュニティを維持する生活圏の形成を目指します。

また、人口減少が進行する中、ストック効果の最大化と維持管理の効率化を図るため、市街化調整区域における土地利用については、鉄道駅や主要な公共施設を中心に生活圏の形成に資する規制・誘導方策を検討します。

目指す都市像③

誰もが利用しやすい公共交通ネットワークの形成

基本的な方針

人口や都市機能が集積する各拠点間の連携及び利用実態を考慮した公共交通ネットワークの形成に市民とともに取り組むことで、移動の円滑化と生活利便性の向上を目指します。

また、ＡＩやＩＯＴなど最新技術による自動運転や電動モビリティなど、多様な移動手段の導入や連携について検討します。

目指す都市像④

災害に備えた、安全・安心を実感できるまちの形成

基本的な方針

災害リスクの情報発信を強化するとともに、想定される災害リスクのレベルを踏まえたハードやソフトの両面から防災、減災対策を行うことにより、すべての市民が災害リスクを正しく認識したうえで安心して暮らせる都市構造の構築を目指します。